

市川 カ・井庭 崇著  
**ジェネレーター**  
 学びと活動の生成



四六判 / 256頁  
 学事出版  
 定価2860円(税込)

「ジェネレーターとは「生成する」という意味で、人は生きている限り何かを生成し続けているというのが著者の考え方。その生成活動をモノ・コト・ヒトと積極的にかかわりながら探索し続ける生き方がジェネレーターのあり方。」  
 本書では、現代を創造社会と規定し、ジェネレーターがますます求められると指摘。その概念が誕生した経緯、社会的背景、役割を解説しながらジェネレーターになるための具体的な方法を示す。フアシリレーターやティーチャーが「教える・教えられる」という非対称の関係であるのに対し、ジェネレーターは一緒に活動する。創造力の源泉はここにありそうだ。

松本恵里著  
**夢中になれる小児病棟**  
 子どもとアーティストが出会ったら

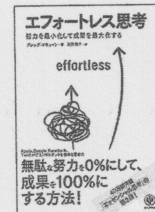


四六判 / 200頁  
 英治出版  
 定価1760円(税込)

著者は、特別支援学校院内学級教員の経験から、病気や障がいと闘う子どもたちをアートで支援する団体「認定NPO法人スマイリングホスピタルジャパン」を立ち上げ、現在はその代表理事を務める。

本書は、活動に至る著者の経験、出会いを紹介しながら、さまざま困難を乗り越える姿が描かれている。先進的な海外の活動を参考にしているが、「プロのアート」「定期訪問」「参加型」「個別活動」という日本版独自の柱を掲げているところが賞賛されている。闘病中の子どもたちが夢中になれる時間を日常的に届けるといふ著者の熱い思いがひしひしと伝わってくる。

グレッグ・マキーン著 / 高橋璃子訳  
**エフォートレス思考**  
 努力を最小化して成果を最大化する



四六判 / 296頁  
 かんき出版  
 定価1760円(税込)

本書のタイトルは一見すると非教育的に思えるかもしれないが、単に楽をしておいしい果実を得ようとする考え方ではない。著者の基本的考え方は、努力でも怠惰でもなくスマートに（かしこく）結果を出すことで、「正しいやり方さえ見つければ、人生の重荷は軽くなり、余裕で大きな成果がついてくる」といふ。

本書ではそのための具体的な考え方が示されているが、認知心理学などの科学的知見に基づき説得力もある。また、「頑張れば成果が出るとはかぎらない」「全力疾走はリスクが大きい」等々、紹介される格言的な言葉を読んでいくだけでも目の前が明るくなる。

瀬成田実著  
**震災を語り伝える若者たち**  
 みやぎ・きずなFプロジェクト



A5判 / 180頁  
 かもがわ出版  
 定価1980円(税込)

著者が当時の勤務校で提案し取り組んだ震災総合学習の実践記録。そのねらいは、震災の体験に基づく思いを綴り、語ることで（いのち）の大切さを考え、復興に努力する人々を知ること、生き方を考える（学びの総合）、社会の意思決定にかかわる力を養う（社会参加）の三つ。

「Fプロジェクト」（Fは、ふるさと・復興・Futureの頭文字）とは、その学習後に生徒有志によって始められた活動チームで、「被災者交流」や「語り部活動」は卒業後も継続され、震災の「風化」が懸念される現在だからこそ、活動の意義も大きい。本書刊行のねらいの一つはそこにあるだろう。